

「聖火」がまちにやってくる

開催まで約1年に迫った東京2020オリンピックの聖火リレールートが発表されました。県内でリレーされる2日間の内、初日の令和2年6月5日(金)に富山県からつないだ聖火が、糸魚川市、上越市、柏崎市、佐渡市、十日町市を巡りゴールの南魚沼市にやってきます。

加えてうれしいのは、最終ランナーを迎えて行われるセレブレーション(祭典)会場にも選ばれたこと。会場となる八色の森公園では、盛大なステージプログラムが予定されています。令和2年7月24日(金・祝)の五輪開会を目前に、世界最大の祭典をみんなで祝う、すばらしい機会になると期待しています。主催者と協力し、万端の準備をしたと思います。

八色の森公園は、毎年1万人規模の来場者となる南魚沼グルメマラソンの主会場。来年も開催時期が重なることが予想され、その相乗効果は、いやが上にも高まりそうです。歓迎ムードの演出に、例えば当市が、昨

年から五輪の暑さ対策の一助に進んでいる「雪資源活用事業」を、ここでも大いに活用できないか? リレーランナーが掲げる聖火トーチのモチーフは、福島県南相馬市の小学生たちがデザインした「桜」なのだから。これは、当市の雪プロジェクトで蓄状態の桜の枝を雪室に貯蔵し、夏のイベント時に取り出し開花させて「もてなし」を演出したいという思いと重なっていかないか? 聖火を迎える演出に、国の重要無形民俗文化財「浦佐毘沙門堂の裸押し」の象徴である大蠟燭などのモニュメント化を考えてもいいのでは? など、ワクワク感とともに思いは湧き出てきます。子どもたちはもちろん、市内外を問わず多くの人とときめきを共感したい。

私は前回の東京五輪(1964年)開催時には生まれていませんでした。新興国の発展が著しい現代、日本開催は私の同世代では人生最初で最後かもしれない。来年のことを言うとうと鬼が笑うといいますが、それでも来年の6月5日は、みなさん今からご予定を!

国際大学留学生 お国自慢コーナー ~boast of my country~

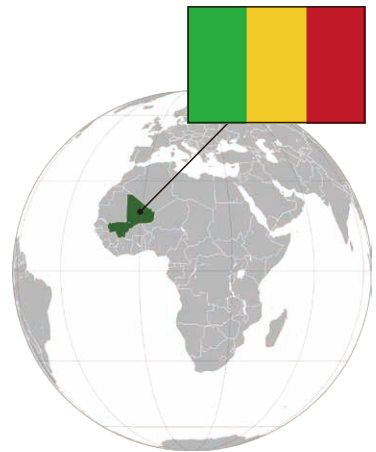
マリ共和国 シェイクナ サンガレさん



私の国はこんなところ

マリは西アフリカに位置し、多様な文化を持つ国です。私の故郷ディアバリの人たちは、分かち合い、見返りを求めません。これは、マリの豊かな連帯文化によるものです。世話好きな人が多く、誰でも受け入れる親しみやすさがあることから、新事業の取引など起業の可能性はたくさんあると思います。

黄金伝説で有名なトンブクトゥ遺跡や、水の精霊を意味するジェンネにある泥モスク、神話の民と呼ばれるドゴン族の集落バンディアガラ断崖などの世界遺産も有名です。ぜひ、マリを訪れてたくさんの発見をしてほしいです。



マリ共和国

公用語	フランス語
首都	バマコ
面積	1,240,000km ² (23位)
人口	18,540,000人
GDP(PPP)	105億3,000万ドル (150位)
通貨	CFAフラン(XOF)

※GDPは国内総生産のことで、購買力平価説(PPP)により算出した数値です

南魚沼市に住んで感じたこと

南魚沼では、想像していなかったたくさんの新しい経験をしました。カレー、天ぷら、納豆など初めての食べ物のほかに、雪の降らない地域に住む私にとっては、スキー場がとても思い出深いです。地域の人たちの連帯感と人や環境に敬意を払う姿はとても印象的です。地域に溶けこんで快適に暮らす外国人の様子からも、街の美しさを感じます。また、農業施設、特に水田と灌漑システムには大変驚きました。